

令和5年度 一般会計補正予算(第4号)

全員賛成で可決

保育園バス置き去り事故を教訓に

幼児教育・保育施設運営支援事業ほか

送迎バスの置き去り防止装置の設置義務化に伴い、民間保育園のバス7台と、市の児童発育・発達支援センターのバス3台分の補助金が予算化されました。



問 概要は。
答 送迎バスに置き去り防止装置の設置が義務付けられ、対象施設に補助金を交付する。市内民間保育施設では8月末に装置を設置した。
装置はエンジン停止後にブザーが鳴り、車内を点検してスイッチを切る仕組み。その後センサーが稼働し、中に人がいると警報が鳴る。
問 児童発育・発達支援センターでの対応は。
答 まず、朝礼で運転手は同乗する保育士と、乗車予定の園児

を確認する。乗車時は園児が挨拶するときを確認している。降車時は保育士が一人ずつシートベルトを外し、降車したことを確認する。また運転手は送迎後、すぐに車内の確認と清掃を行う。

伴走型子育て支援の充実

子ども・子育て支援対策事業

はじめて子育てコンシェルジュ事業では、切れ目のない支援を行うため、初めて子育て支援センターに来所した子育て世帯に対して給付金を支給します。



問 事業内容は。
答 令和5年4月1日以降の出生から2歳の誕生日までの乳幼児を対象としている。
上野台、大井子育て支援センターに来所してもらい、子育てコンシェルジュ事業を説明し、子ども一人当たり50000円の給付金を申請してもらう。

また、必要に応じて保健センターなど関係機関につなぎ、伴走型支援の強化を図る。

わたしもと言



人の目でチェックするのが基本です。同乗の保育士と運転手で手順を決めて確認しています。子どもたちも、万が一取り残されたときのために車内の緊急ボタンを押す練習をしています。

今まで事故はありませんでしたが、もし起こるとしたら担当が変わって慣れない人が同乗するときでしょうか。そのようなことのないよう、マニュアルを確認し、しっかりと引継ぎをしています。

民間保育園バス運行責任者 藤田 雄介さん

わたしもと言



ふじみ野市に越してきて3年半になります。2歳9か月と0歳の子育て中で、市報の子育て支援のページを良く見て利用しています。親子で楽しめる場がたくさんあって、ふじみ野市は子育て支援が充実していると思います。

コロナ禍での出産だったのですが、子育て支援センターが開いていて、子育ての悩みも相談しやすく、歩いて行ける範囲に親子で集える場があって本当にありがたかったです。

上野台子育て支援センター利用者 吉野直子さんと2人のお子さん、所長の細田春恵さん